

## 盤洲干潟(木更津海岸)の観察

報告者：大野幸正（東京湾活き活き研究会）

日時：2020年6月5日（金）8:30-11:40 干潮時刻 11:14 天気 晴

場所：盤洲干潟（木更津漁協の潮干狩り場）

昨年は日曜日の晴天で、大混雑の木更津漁協の潮干狩り場でした。今年はオープン初日、穏やかな晴天でした。新型コロナ「自粛」のために潮干狩り場オープンが2か月以上遅れたのですが、平日であったためでしょうか、かなり空いておりました。

例年のルートで岸から800mまで観察したかったのですが、今回の潮干狩り場は網柵（アカエイ除け）で囲われており、観察は岸から250mまでとなりました。観察地点（下図の赤印、50m間隔）で熊手、手網等を用いて底生動物の状況を確認しました。

潮干狩り場ではお客さん用にハマグリとアサリを撒いているので、オープン初日のためでしょう、たくさんのハマグリとアサリを収穫しました。入場料は1800円（制限重量：2kg）でした。

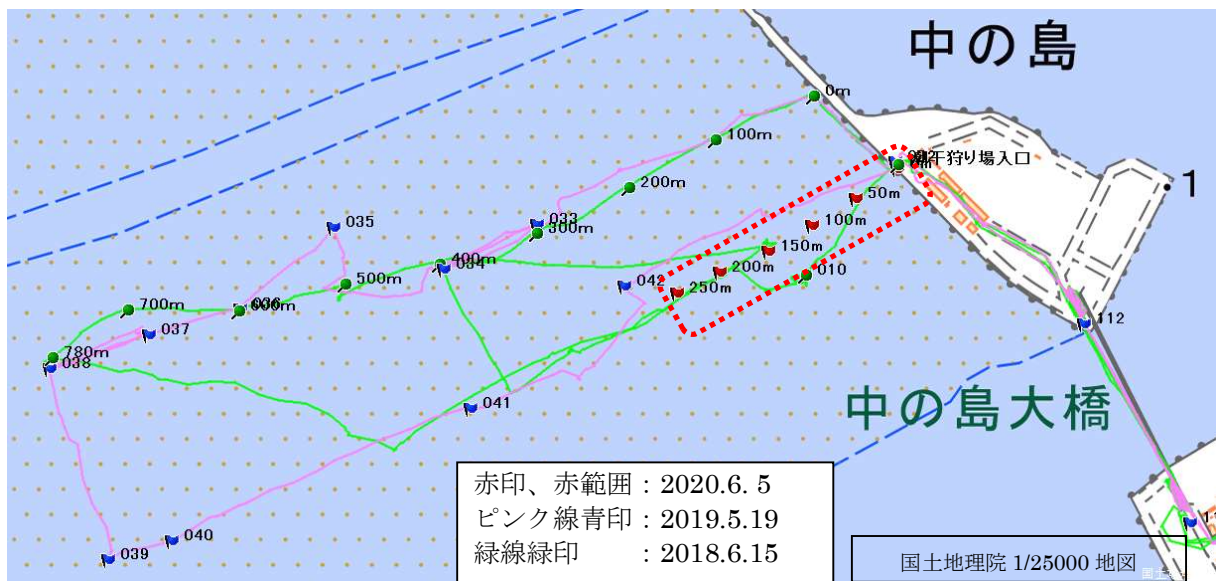
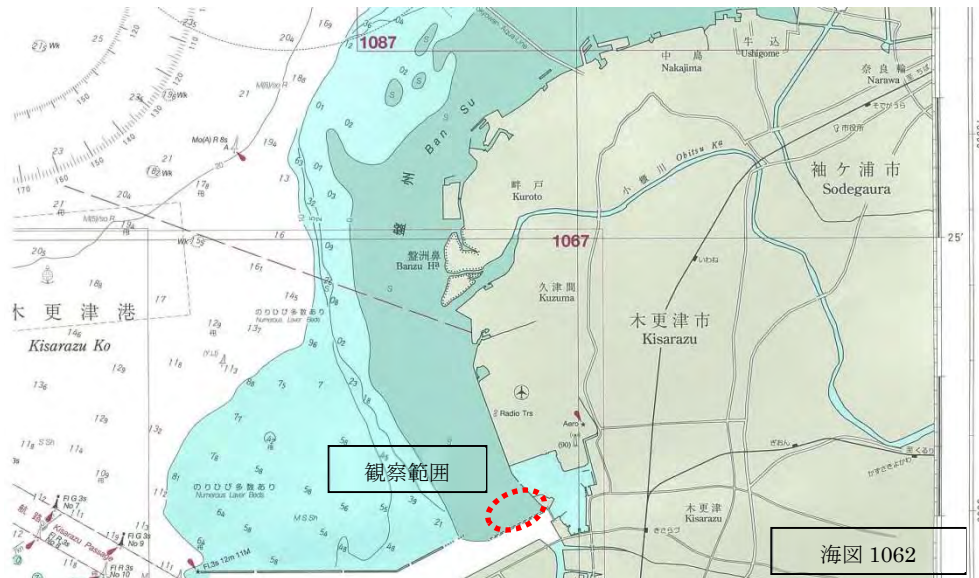


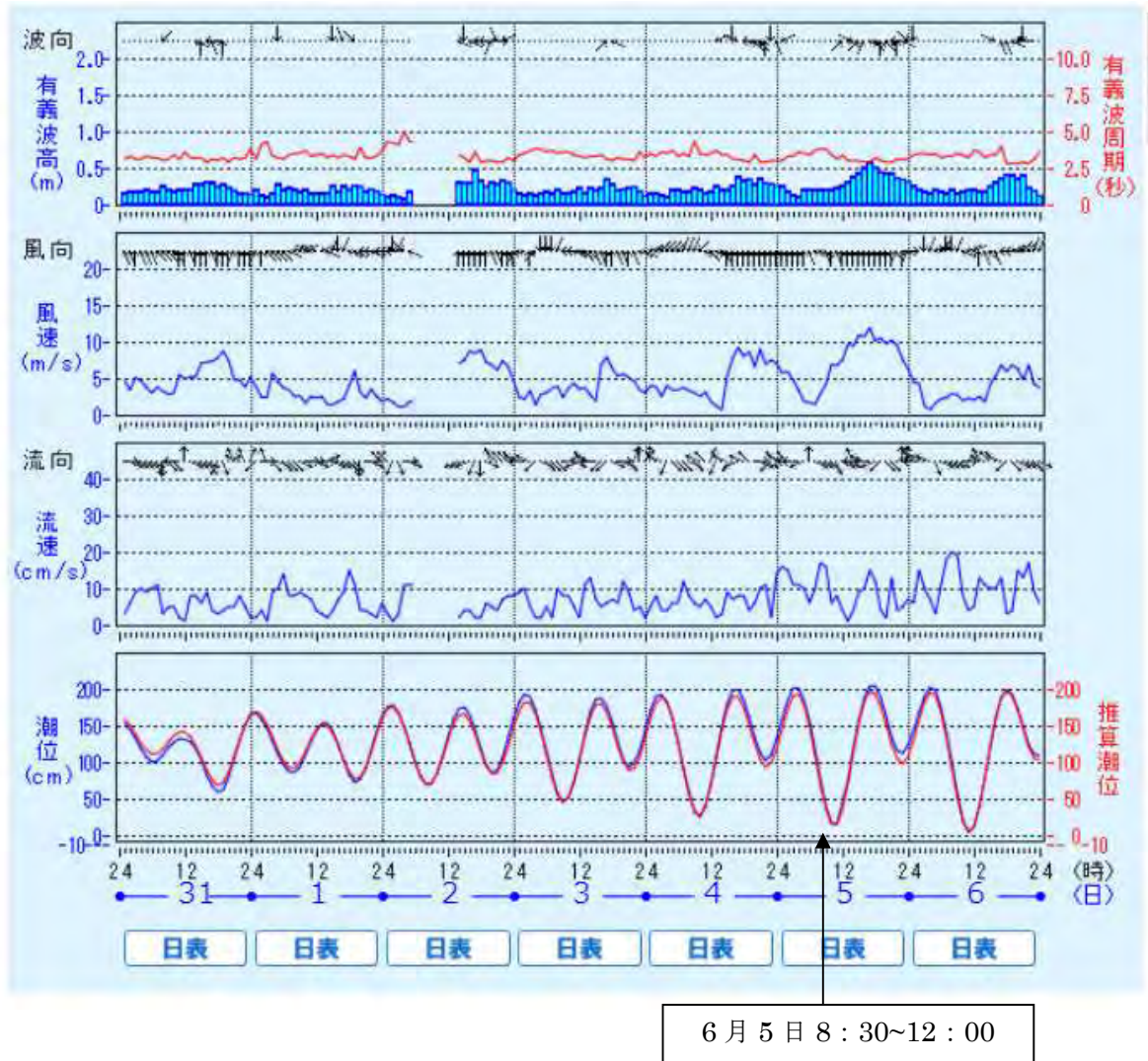
図-1 観察の範囲と観察ルート

【当日の実測潮位と気象海象の状況】

例年、観察日は気象庁の潮位表を確認して潮がよく引く大潮期にします。昨年は日曜日としたために大混雑でしたので、金曜日としました。

潮位実測データ（東京都港湾局）を確認したところ、図-2に示したとおり概ね推算潮位で見込まれたのと同程度に潮が引いておりました。

（実測データは東京港内で木更津は多少離れておりますが、その傾向は概ね同様でしょう。）



<http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/tokyop/topframe.htm>

観測期間：2020年05月31日～2020年06月06日

観測地点：東京港波浪観測所

図-2 実測潮位等の経時変化（東京都港湾局の観測データ）

【概況】底質表面近くにはふるいがけによりアサリの稚貝が確認されました。アサリとハマグリは、潮干狩り場としてはたくさん獲れました。ハマグリが獲れた箇所ではアサリの商品サイズが獲れないという状況です。『干潮干狩り場内で商品サイズまで育ったアサリはいないのではない』という疑問が湧きます。シオフキガイはおいしい貝ですが砂が抜けにくいため商品価値が低く漁師は漁獲しませんでした。そのシオフキガイも見かけないということは、貝類の再生産低下という問題がまだ継続しているといえましょう。更なる研究、努力が求められています。





木更津漁協の潮干狩り場 2020年6月5日8:30



木更津漁協の潮干狩り場 2020年6月5日11:40



## 【潮干狩り場】

入り口には、こんな掲示がありました。金、銀のハマグリ探しは恒例の行事です。「しおひがりじょうの仲間たち！！」は、アサリ、ハマグリ、カガミガイ、アシハラガニ、コメツキガニ、ヤマトオサガニ、ケフサイソガニ、ニホンスナモグリ、アゴハゼ（ダボハゼ）、ヒトデ、クモヒトデとありました。

今年の特例は、感染症対策、3つの蜜を避けましょう！ですね。オープン初日でしたが、拍子抜けするほど人出が少なかったです。



潮干狩り場は、空いていました。入場時は比較的手前にいました。



退場時でもこの程度でした。比較的沖寄りにいました。





☆生物の出現状況

【岸寄り、護岸付近】 護岸の直近ではアナアオサなど海藻が打ち寄せられていませんでした。護岸付近の石にはカキ殻とアオノリ類が付いていました。底質は貝殻が混じる砂地で、硫化水素集（卵の腐ったような臭い）はありませんでしたが、生きた貝類は見えませんでした。





【岸から 50m 付近】砂泥質でしたが、足が沈むようなぬかるみではありません。クロムシ（タマシキゴカイ）の糞塊と卵塊が多くみられました。シロボヤもこの辺りでは所々で見かけました。商品サイズ（殻長 2cm 以上）のアサリ 1 個と稚貝を捕獲、アラムシロガイは随所にいました。



クロムシ（タマシキゴカイ）の糞塊と卵塊



シロボヤ



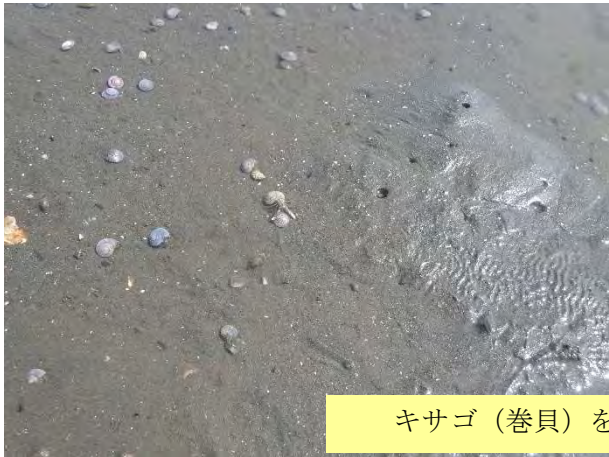
アサリ稚貝とキサゴ（巻貝）



アサリとアラムシロガイ



【岸から 100m 付近】 周囲には潮干狩りお客さんがいました。巻貝のキサゴがたくさん地表面にいましたが、たぶん、すべてがヤドカリ類です。結構よいサイズのアサリが獲れました。ハマグリも 2 個混じりました。マメコブシガニ、エビジャコもいました。



キサゴ（巻貝）をまとったヤドカリ類



マメコブシガニ



エビジャコ





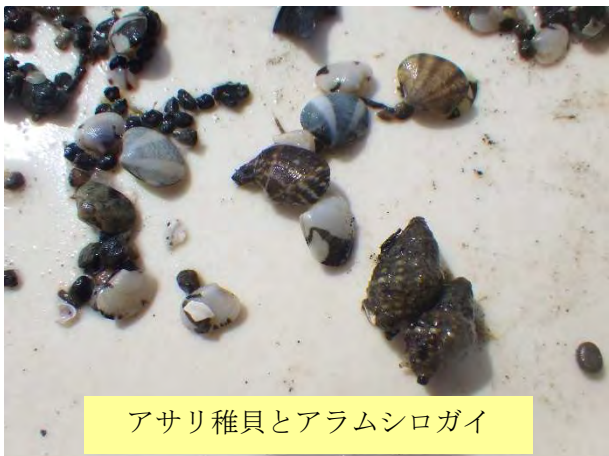
【岸から 150m】この辺り、結構な量のハマグリが獲れまして、アサリよりも多かったです。潮干狩りのお客さんの獲物も見せてもらいました。砂地をタモ網で探るとエビジャコがありました。植物では、海藻のアオノリ類、海草のコアマモがありました。



アオノリ類



コアマモ



アサリ稚貝とアラムシロガイ



エビジャコ



潮干狩り客の獲物



【岸から 200m】 昨年はこの辺りからコアマモの群落を確認できたのですが、見かけませんでした。所々にアオノリ類が目につき、小型の紅藻類もありました。底質は貝殻の混入が多くなり、アサリ、ハマグリは獲れませんでした。あと 50mで網柵があり、今回の調査はそこまでです。



アオノリ類と小型の紅藻類 (キブリティグサ?)



底質のふるいがけサンプル



手網での採取サンプル



【岸から 250m】今年の潮干狩り場は、完全に網柵で囲まれておりました。アカエイがアサリ、ハマグリを食害すること、尾の付け根の棘に毒があり人に害を与えることのために、侵入防止柵を建てたようです。柵内の潮干狩り場にコアマモの群落を見かけなかったのは、機械で耕耘したのかもしれませんが。網柵の外側にはアカエイが打ち捨てられていました。管理者が駆除したものです。アラムシロガイが多数群がっておりました。彼らは干潟の掃除屋さんです。ワカメ、ホンダワラ類が流れ着いていました。



アカエイの死骸と群がるアラムシロガイ



ワカメとホンダワラ類





ここは 200m 地点よりも貝殻が多く混じる砂地で、ふるいがけすると貝殻が多く残ります。貝殻は潮干狩りには邪魔な存在です。商品サイズのアサリは獲れませんでした。アサリ稚貝とバカガイと思われる殻が柔い稚貝がありました。ツメタガイの卵塊（砂茶碗）もありました。



底質のふるいがけ



アサリ稚貝とバカガイ稚貝など



ツメタガイの卵塊（砂茶碗）



コアマモ



【その他、確認したこと 1】



干潟に取り残されたミズクラゲ



クロムシの糞塊から多毛類、タマシキゴカイ？（普段、移植ごてでは獲れない）



【その他、確認したこと 2】





【その他、確認したこと 2】





【漁獲物、その後】



ハマグリはむき身にして醤油の甘煮、アサリはバター蒸し、美味しかった！！

以上です。